

製本のススメ

Vol. 100

暑い寒いと言っているうちにナント**100回!**になりました。一号も欠かさず読んでいただいたお客様！**御社は当社の神様です<()>毎月仕事をだして下さいありがとうございます。**心より御礼申し上げますと共に これからもご愛読お願い申し上げます。そしてちょっとだけ欠号のお客様、**これを節目にぜひ当社の神様になりましょう!**

今回は**禁止手**の話し①

製本で一番の禁止手は【紙目】です。この紙目は、製本のみならず、紙工品全体に言える事です。言い換えれば「紙目を制すれば、すべてを制する」訳ですね。製本のススメでは、機会のあるたびに紙目の話を書いてきましたがそれほどに重要な事柄で、キチンとした本を作りたいたならば、紙目を軽んじてはいけません。特に丸背上製本の場合、逆目では加工を受けてくれる会社は皆無でしょう。(何故って?クレームが来て弁償したくないからです)それほど、良い仕上りになりません。合本を作る際にはこの**クレームが来ますので、予め客先へ了解を取っておく必要があります。**基本的には本の天地方向に紙目の流れがあれば**開きが良く、読み易い本が出来ます。**

しかしながら、全て天地方向の流れが良いわけではなく、製品により **その流れ目は変えねばなりません。**例えば伝票や便箋など天糊物は、左右に紙目が流れないと良い仕上りにはなりません。**糊の湿気で紙が伸び波打ってしまうため**です。当然ですが、**接着面が変形し糊の付きは悪くなりハガレの原因になります**し、また使うにも少々使い辛い物になります。

例外もあります。CD や DVD などのインレイ用紙や、ミニ折や特殊折などは、**あえて紙目を逆に使い、紙の強度を優先し高速加工に耐えられるようにする場合**などです。冊子でも、横長の本等は、紙目による反りが出やすい為、表紙や見返しを あえて逆目に使う事がありますが、逆目使いはかなり危険が伴いますので、予めサンプルを作るなどしておく必要があります。



Teabreak

先日 焼肉屋さんへ行きましたら、天井からのれんを下げ客席を区切っていました。足元はみえるけど顔までは見えにくい。江戸時代に発達したこの暖簾は、昼間 店内を見えにくくします。するとちょっと覗きたいのが人情 夜のれんから漏れる明かりに、ちょっと覗きたくなるのが人情 この通過自在な要素が集客率を高めたと言われます。空間の仕切りもできて、お店のロゴも入る。日本には実に合理的で素晴らしい[布]文化があるものだと感心しました。

by (株) 井関製本